

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの目標を立て、その目標に向け業務に努める。	法人の社是・理念を踏まえた上で、ホーム会議において管理者と職員が話し合い、事業所独自の理念「お客様が安全安心に心穏やかに生活できるホーム」を決めサービス提供に取り組んでいる。ユニット会議等の席上において唱和し意識を高めている。また、理念にそぐわない行動等が職員に見られた場合にはお互いに注意し合い、理念の浸透を図るようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お祭りに行ったり喫茶店に行ったり地域に出出たりしている。	自治会費を納め回覧板や資料が廻ってくるため地域の様子がわかり、ホワイトボードに掲示し職員も閲覧している。地元公民館で民生委員や婦人部により開催される「お茶会」に地元出身の利用者が参加し友人や知人と旧交を温めたこともある。近隣の中学校2校の職場体験学習を受け入れ、1日目で計画を立て2日目に実践を行い、より具体的に仕事の理解を深められるように指導している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で情報発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出来ていないところなどを話している。	2ヶ月に一度、奇数月の午前中に開催している。家族、町会長、民生委員、地域包括支援センター担当者、訪問看護師、歯科医師等の参加をいただき、ホームの現状報告や参加者からの意見など、双方向の話し合いが行われている。職員への報告はホーム会議等で行い、情報共有化を図りホームの運営に活かしている。議事録ファイルはいつでも手に取れる場所に置かれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター、認定調査員、地区担当ケースワーカーの方と情報交換を行っている。	市の職員とは運営推進会議を通して良好な関係が取れている。介護認定更新時の調査はホームにて行われ家族等が立会うこともあり、職員からも情報を提供している。介護認定の更新手続きなども家族の依頼により代行することがある。市が召集する研修会や事業所連絡会などがあれば管理者が出席するようになっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について定期的に会議などで研修会、勉強会を行い、職員全員が身体拘束について理解を深め身体拘束を行わないケアに努めている。	ホーム近辺には交通量の多い道路があり、リスク回避のため玄関は施錠している。身体拘束研修に出席した職員から資料提供や内容の情報を受け、資料配布を行い職員間の情報共有を図っている。帰宅願望の強い利用者の思いを実現するために車で自宅に出掛けることもある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修会の機会を作り、虐待についての理解を深め、虐待のないサービス、又日々の業務の中で虐待が見逃されることないように努めている。		

ニチイケアセンター松本筑摩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象となる入居者様がいないため日常生活自立支援事業、成年後見制度について今後勉強会の機会を持ち活用できるように取り組んで行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、又は改定等の際は、十分な説明を行い質問なども受け、安心して納得して契約が行われるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時やお電話でお聞きし、運営に反映しています。	利用者のうち大半の方が自身の思いを表出できる。表出できない方については利用前の生活歴などを参考にし、表情や仕草から思いを推し量り汲み取っている。家族等の来訪は多い方で週1~2回、遠方の方でも月1回は来訪され、コミュニケーションを取る機会と捉え、管理者や職員は利用者の様子を伝え積極的に情報を交換している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議やホーム会議で話し合い反映している。	ユニット会議が月前半、ホーム会議が月後半に開かれ、いずれも午前10:30からで業務予定や各種報告、勉強会等が行われている。法人として「目標管理制度」を導入しており、半期に一度、管理者が法人支店担当課役職者と職員との面談を行い、相互理解と意思疎通を図り、意見や提案を業務運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給料水準、労働時間は規定通り行っている。また、向上心がもてるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に行われる研修会や講義への参加を促している。又、職員一人ひとりの力量を把握し、働きながらトレーニングを進め、育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や講習会の参加により同業者との交流を深め、意見交換をすることによりサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人とのコミュニケーションを図り、その会話の中から本人が感じている不安や意見を聞き入れ、安心する為の関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前の見学、事前の面談等家族との話し合いの時間を多く持ち、その中から不安や要望に耳を傾け関係作り努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状況、又ご家族からの要望を聞きながら、その時必要としているサービスであれば、他のサービス利用を提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者一人ひとりを尊重し、できることをやって頂き、お互い協力し暮らしていく為の関係を築いていけるよう努める。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族がいつでも面会に来られるような関係作りをし、面会に来られた際はご家族とご本人の時間を大切にして頂けるよう環境づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来るだけご本人と面会に来て頂けるような環境作りを行い、必要に応じてご家族に外出の相談を行っている。	利用前の知人の来訪を受ける方がいる。また、地元出身の利用者同士が1階と2階を行き来し交流を深めている。ホーム近くのロードサイドには利用前に買い物に良く行った多様な量販店等があり、利用者の希望で本や洋服を買うために車いすで出かけた時、喫茶店に出かけたりと慣れ親しんだ環境での楽しみの継続や思いの実現に向けた支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の中でご利用者様一人ひとりが協力合って生活が行えるよう、コミュニケーションの援助を行い、その中で関係作りができるよう努めている。		

ニチイケアセンター松本筑摩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了後もご家族からの相談等があればこれまでの関係性を大切に支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向をコミュニケーションの中から把握し、困難な場合は定期的な会議で話し合い、ご家族にも報告し検討していただいている。	7割強の方は思いや意向を表出できる。ホームとしてセンター方式(症状を問題行動として捉えるのではなく、本人の心の声と理解する)を導入し、利用者の思いを把握しその実現に向け支援をしている。自己流で覚えたハーモニカの得意な方に歌の伴奏をお願いしたり、生け花をしたいと希望される方には庭の花を摘んで生けていただいたりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの話し、ご本人の昔の話、思い出などを聞き、センター方式の記録を行い、経過の把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご入居者様、一人ひとりの生活状況、心身の状態を記録にし現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状の課題について定期的にモニタリング、カンファレンスを行い、関係者からの意見やアイデアを反映させた介護計画書を作成している。	モニタリングはユニット会議で行われ、それを踏まえ再アセスメントを行い計画作成担当者が計画を作成している。見直しは長期目標の6ヶ月、短期目標の3ヶ月に合わせ行い、心身の状態に大きな変化が見られた場合にはその都度見直しを掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご入居者様、一人ひとりの様子を日々の介護記録に記入し職員間で情報を共有している。又緊急を要するものは、その場で職員に介護方法を指導している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況、その時々生まれるニーズを1つの考えに捉われず、色々な意見を聞くことにより、柔軟な支援が行えるように努めている。		

ニチケアセンター松本筑摩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、ご本人が地域の中で安全で楽しく暮らしを送ることの出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族が希望するかかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるよう支援を行っている。	協力医院の医師による往診がユニットごとに月1回行われている。受診の付き添いは基本的に家族にお願いをしているが、職員が行う場合にはタクシーチケットを利用し通院している。歯科の往診も週1回土曜日に行われている。また、訪問看護も週1回受け入れ、オンコール体制も二つの電話回線がありより安心にと配慮がされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎月4回の訪問看護により入居者様一人ひとりの、体調や状態の変化など、情報交換を行ない、適切な受診、看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際は病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期的に本人の状態をご家族に報告し、現在の状態を把握していただく。ご本人、ご家族との話し合いの中で方針を共有し関係者ごとご本人やご家族が望む終末期の生活を送れるよう支援に取り組んでいる。	職員はホーム会議やユニット会議において看取りのための話し合いを行い、本人、家族等の意向に沿った支援に努めている。法人として「重度化した場合における対応に係る指針、同意書」があり、利用開始時に家族等に重度化した場合等について十分説明がされており、看取りなどの現実に直面した場合にも医師との連携をとり、状態の変化に合わせ意志を確認しながら見極めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に急変や事故発生時に備えて講習会、訓練を行い実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、事前に地域の方に報告を行い、情報交換を行うことにより、地域との協力体制を築いている。防災訓練記録に消防の指導、地域の方の意見等を記載し今後に活かしている。	年2回消防署立ち合いの下、夜間想定での通報訓練を行い、実際に利用者の方にも避難していただき実施している。また、建物の構造上2階からの避難も行き、毛布による階段避難訓練を職員が体験した。今後の予定として水害を想定した自然災害訓練なども計画している。備蓄品は倉庫に整理整頓され、内容別に入れしやすいうように保管されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を重視し、プライバシーを尊重し、声がけに注意した対応をしている。	男性職員が現在数名おり、入浴や排せつ時の同性介助を希望する利用者については配慮し同性でのケアに当たっている。呼びかけは、敬意を込めて姓や名前に「さん」を付けて呼んでいる。職員はプライバシーに関する意識が高く、利用者の尊厳にも配慮しやさしく接する姿が随所に見られた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が思いや希望を表すことの出来るような声がけや促しを行い、自己決定できるような環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、その日一日を希望に沿ってその人らしい生活が送れるよう支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の身だしなみやおしゃれに対する意欲がなくなるような声がけや環境を作っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの出来ることをやって頂き、役割を持つことで、食事を楽しく出来るよう支援している。	箸の補助具を使う方もいるが、ほとんどの利用者が自力で食べる事ができる。食事作りは職員が交代で行い、下ごしらえや下膳等は利用者の出来る範囲でお手伝いをしていただいている。食材は週3回、配達で調達し、頂き物の野菜なども加え工夫して調理している。利用者の食事摂取量、水分量は介護記録に記載し、健康管理のバロメーターとして使っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調の状態や習慣に応じ、一日に必要な栄養バランス、水分量が確保できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施し、口腔状態やご本人の力に応じた口腔ケアを行っている。		

ニチケアセンター松本筑摩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりトイレでの排泄が行えるよう、その方にあつたトイレ誘導、声かけなどの支援を行っている。	自立の方は若干名で、そのほかの利用者は見守りが必要となっている。布パンツにパット、リハビリパンツにパットを使用するなど、一人ひとりに合わせた支援が行われているが、職員は利用者の排泄パターンを把握しており声掛けで誘導を行い早めに対応している。消耗品や介護用品などの負担軽減にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録により排便状態の把握を行っている。便秘の原因や及ぼす影響を理解し、バランスの取れた食事やヨーグルト、豆類、水分の摂取に努め、毎日の運動の機会により便秘予防に努める必要性に応じ、薬も考慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそつた支援をしている	一人ひとりの体調や希望に合わせ、スキップや1対1の会話など個々に添った支援を行い、入浴の時間を楽しくして頂けるよう努めている。	ほとんどの利用者は見守りが必要で入浴は週2回を目標に毎日入浴の態勢をとり、利用者の様子を見たり希望に沿いながら昼食とお昼寝を挟んだ午前か午後の時間帯に行っている。浴室は、浴槽部分が2方向壁に接していないため、介助支援がしやすい造りになっている。体調不良で入浴ができない場合は清拭等の対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状況に合わせた休息ができ、安心して気持ちよく眠れるよう支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の目的や副作用、用法、用量を全職員が理解し、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の生活歴や習慣を活かした役割りを見つけ、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族や地域の方に協力してもらいながら、ご本人の希望に沿つて外出の機会が持てるように支援している。	天気の良い季節には外出計画を立て取り組んでいる。外出時、ほとんどの利用者が車椅子使用のため、少人数ずつで何回も往復を繰り返して近くの神社にお連れしたり、ホーム敷地内を散歩したりしている。「家へ帰りたい」との要望を受け自宅へ職員がお連れすることもある。一階ユニットではテラスに出て、お茶を飲んだりして楽しむこともある。	日常的な外出は心身の健康を保ちながら気分転換をしたり、季節の移り変わりを肌で感じる事ができる大切な機会でもある。日々の暮らしの活性化に繋げられるよう期待したい。

ニチイケアセンター松本筑摩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所で管理をしているが、希望があればお金を使えるよう支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでもご家族や友人などに連絡やお手紙のやり取りができるよう支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その時の季節に合わせて模様替えを行い、入居者にとって不快や混乱を招くような刺激を避け、居心地よく過ごせるよう努めている。	居間兼食堂は南側に面し日当たりが良く明るい。壁には利用者手作りの消しゴム版画のモミジの制作が進行中で、訪問時の季節にピッタリの色調で飾られていた。ホームの所々の壁にも利用者と職員共同のハロウィーンの飾り付けなどもされていた。共用部分の換気は匂い等がこもらないように、職員がさりげなく行っていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一日の中で一人になれたり、仲間との時間を過ごしたりと思い思いに過ごせるよう、居場所の工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人やご家族と相談を行い、使い慣れたものや馴染みのものを置き、今まで住み慣れた環境に近い空間で居心地良く過ごせるよう工夫をしている。	居室には腰高の大きな窓とエアコンが取り付けられ明るい造りになっている。各居室ごとにクローゼットが備え付けられ、収納スペースが確保されている。利用者が持込まれた馴染みの整理ダンスの上には、思い出の写真や人形などが飾られていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力を活かし、出来ることや、分かることを安全に行い、自立した生活が送れるよう工夫している。		